

## 【改訂版】AIハンズオン研修講座(全4回構成)

### 講座所要時間

- 基本研修: 12~15時間です(4~5時間×3日間)。
- フォローアップ研修: Day4として、1~2ヶ月後に2~3時間程度実施します。
- 3日間のそれぞれに自己学習が設定されています。自己学習は、全て、学んだことを業務で活かす実践的な自己学習です。

### 研修全体のゴールイメージ

この研修では、3日間の集中研修と1回のフォローアップ研修を通じて、以下のスキル習得を目指します。

- **Day1:【インプット】**AI活用の全体像と基本原理を理解し、主要ツール(Gemini, Notta, Manus)で何ができるかを把握します。
- **Day2:【基礎実践】**各ツールを実際に操作し、基本的な業務を効率化するスキルをハンズオンで習得します。
- **Day3:【応用展開】**複数のAIを組み合わせ、自身の業務課題を解決するための設計力と実行力を身につけます。
- **Day4:【定着・展開】**研修後の実践成果を組織全体に共有・展開し、AI活用を個人のスキルから組織の文化へと昇華させます。

### 【重要】本研修で使用するAIツールと事前準備

本研修は、各AIツールの事前のアカウント登録と設定を完了していることを前提に進行します。ハンズオン形式の効果を最大限に引き出すため、必ず以下の準備を済ませた上でご参加ください。

- **Gemini(ジェミニ)**
  - 役割: 中核となる対話型AI。文章作成、要約、アイデア出し、分析など、あらゆる知的生産活動のベースとなります。
  - アカウント準備: 【必須】**Google Workspace**の法人アカウント(有料)
    - 本研修の核心部分は、Geminiの高度な機能を活用して進めます。無料アカウントでは研修の主要な演習が実施できず、効果が得られないため、必ず有料の法人アカウントをご用意ください。
- **Notta(ノッタ)**
  - 役割: AI文字起こし・議事録作成ツール。会議やインタビューの音声を自動でテキスト化し、議事録作成の手間を大幅に削減します。
  - アカウント準備: 【有料アカウントを強く推奨】
    - Day2の演習ではNottaの「AI要約機能」を使用します。この機能は有料アカウントでのみ利用可能です。
    - 無料アカウントで参加される場合は、こちらで準備したAI要約済みのデータをお渡しして進めますが、ご自身の手で一連の流れを体験いただくために、有料アカウントでの参加を強く推奨します。
- **Manus(マナス)**
  - 役割: AIエージェントツール。複数のWebサービスを跨いだ定型作業を自動化することができます。

- アカウント準備:【無料アカウントで可】
  - 講座への参加は無料アカウントで問題ありません。より本格的に取り組みたい場合は、有料アカウントをご検討ください。
- **Aqua Voice**(アクアヴォイス) - ※任意
  - 役割: 高精度な音声入力ツール。キーボード入力の代わりに話すことで、プロンプトなどを高速に入力します。
  - アカウント準備: 利用は任意です。ご自身の業務環境に合わせてご判断ください。
- **Text Blaze**(テキストブレイズ)
  - 役割: 定型文入力補助ツール。よく使うプロンプトを短いショートカットで呼び出せるようにし、作業を効率化します。
  - アカウント準備: 無料アカウントでご参加いただけます。

#### 【追加】研修効果を最大化するための特別設計

- 戦略的なグループ編成:
    - 研修効果を最大化するため、事前に事業者様と協議の上、部署や役職、スキルレベルなどを考慮した効果的なグループ編成を行います。これにより、部門間の連携促進やチームでの学習効果向上を図ります。
  - **Day4** フォローアップ研修による定着化支援:
    - 研修で学んだ知識を「やりっぱなし」にせず、現場での実践と定着を強力にサポートするため、研修の総仕上げとしてDay4を設定します。これにより、個人のスキルを組織全体の財産へと変えます。
-

## Day1: インプットデイ - AI活用の全体像と基本スキルの理解

ゴール: 各AIツールの機能と可能性を理解し、AI活用のための基礎知識(プロンプト等)を習得する。

1. オリエンテーション
  - 1-1. 研修の目的と3日間のゴールイメージの共有
  - 1-2. AIを活用した新しい仕事の進め方とは
  - 1-3. 現在のAI活用度と課題の共有
2. 生成AI-LLMの基礎知識
  - 2-1. LLMとは何か?(得意なこと、苦手なこと)
  - 2-2. LLMの種類と特徴、そしてGeminiを扱う理由
  - 2-3. 【重要】AI利用におけるコンプライアンス(情報漏洩、著作権、倫理)
3. プロンプトエンジニアリング入門
  - 3-1. AIへの指示「プロンプト」とは何か(良い指示・悪い指示)
  - 3-2. 思い通りの答えを引き出すためのプロンプトのルールやコツ
  - 3-3. すぐに使える厳選プロンプト集の紹介
  - 3-4. 定型プロンプトを効率化するツールの紹介(Text Blaze, Aqua Voice等)
4. Gemini ケーススタディ
  - 4-1. Geminiの基本機能とインターフェースの解説
  - 4-2. ケーススタディ: 様々な業務シーン(メール作成、資料要約、アイデア出し等)での活用事例デモンストレーション
  - 4-3. Gemの解説とファクトチェックGem、プロンプト生成Gemを実際に作ってみる

## Day2: 基礎実践デイ - 各ツールのハンズオン

ゴール: Gemini, Notta, Manusを実際に操作し、単体および連携での基本的な使い方をマスターする。

1. 前回の振り返りと質疑応答
2. **Gemini** 活用演習
  - 5-1. 《演習》Day1で学んだプロンプトのコツを使い、自身の業務に関連するテーマでGeminiとの対話を実践する。
3. **Notta** 活用と**Gemini**連携
  - 6-1. Nottaの基本操作と高精度な文字起こしのコツ
  - 6-2. 《演習》音声データから文字起こしとAI要約を作成する
  - 6-3. 《連携演習》Nottaの出力結果をGeminiで加工し、指定フォーマットの議事録や報告メールを作成する。
4. **Manus** 活用入門
  - 7-1. エージェントAIの仕組みとクレジットについて
  - 7-2. Manusでできることと具体的な活用事例の紹介
  - 7-3. 他のツールとの使い分けと経済的な活用方法
5. **Day2まとめとDay3への接続**

## Day3: 応用・総合演習デイ - 業務課題の解決

ゴール: 複数のAIを組み合わせ、自身のリアルな業務課題を解決するための自動化フローを設計・実行する。

1. 前回の振り返りと質疑応答
2. **Manus** 活用演習
  - 8-1. 《演習》簡単なWeb上の情報収集やデータ入力をManusで自動化する。
3. 応用、総合学習
  - 9-1. ここまで学びの総括と、複雑な課題解決の設計方法
  - 9-2. ケーススタディ・ディスカッション:
    1. 企業マニュアルの半自動作成フロー
    2. デザインを適用したパワー・ポイントの自動作成
    3. AIを組み込んだ営業の設計と実践
    4. SNSの企画立案から投稿文生成までの効率化
4. 【最終演習】自身の業務課題への挑戦
  - 10-1. 《グループワーク or 個人ワーク》
    1. 自身の業務の中から、AIで自動化・効率化したい課題を設定
    2. 3日間で学んだツールをどう組み合わせるか、解決策となるワークフローを設計
    3. 実際にプロンプトやツールを操作し、自動化のプロトタイプを作成
    4. 成果と今後の展望を発表・共有
5. 研修全体のまとめ
  - 11-1. 3日間の総括と質疑応答
  - 11-2. 明日からの業務にAI活用を定着させるためのネクストステップ

## Day4: 実践報告・フォローアップデイ - 成果の定着と横展開

ゴール: 研修後の実践成果を共有し、成功事例の横展開と課題解決を通じて、組織全体のAI活用レベルを引き上げる。

### 1. 研修後の実践報告(グループ発表)

- 研修で編成されたグループごとに、1~2ヶ月間の実践内容と成果を発表します。  
発表にあたっては、事前に以下の項目を盛り込んだテンプレートを配布します。
  - 取り組んだ業務課題と目標
  - 具体的なAI活用事例(プロンプト、ワークフロー等)
  - 得られた成果(削減時間、生産性向上率など)
  - 今後の課題と展望

### 2. 講師からのフィードバックとアドバイス

- 各グループの発表に対し、講師からさらなる改善点や次のステップ、新たなツールの活用法などを具体的にフィードバックします。

### 3. 質疑応答・ディスカッション

- 参加者全員で、実践してみての疑問点や成功のポイントについて議論し、組織全体の知見を深めます。

### 4. 優秀事例の表彰とまとめ

- 特に優れた取り組みを行ったグループを表彰し、成功事例を称えることで、組織全体のモチベーション向上を図ります。最後に、今後の継続的なAI活用のためのアクションプランを確認します。